

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290400609		
法人名	社会福祉法人 星隆会		
事業所名	グループホーム 暖らん		
所在地	島根県出雲市塩冶町南町1丁目1-37		
自己評価作成日	令和2年4月10日	評価結果市町村受理日	令和2年9月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kiichigo-danran.jp/danran/">www.kiichigo-danran.jp/danran/</a>
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ワイエム
所在地	出雲市今市町650
訪問調査日	令和2年7月16日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ご利用者の生活歴を把握し、その生活習慣、嗜好等を尊重し継続していただけるよう支援する。掃除、料理、買い物など生活する上でのいろいろな活動に参加していただく。認知症の非薬物的療法としての効果も期待しながら、季節の行事、音楽、クラフト、運動、頭の体操、回想など様々な良質のアクティビティの機会を提供する。季節の行事や日常の活動において、同法人内の歩いて数分のところにある保育園の園児と活発な交流を行う。</p>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>平成17年に保育園の開所とともに発足した社会福祉法人星隆会は平成28年に小規模多機能型居宅介護ホームを開所し、平成31年にグループホーム暖らんを開所しました。病気や障害があっても、住み慣れた自宅や地域において自分らしく生き生きと安心と笑顔のある生活と人生を送れるよう支援していくという理念は、小規模多機能ホームからグループホームまで一貫して守られており、木材がふんだんに使われている住み心地の良いホームのそこかしこで、優しい職員に見守られている利用者さん方は、リラックスして、それぞれが、体操や散歩、食事づくり、お掃除などに励む姿が見られる。ホームは市街の中にあつて、行き交う車の喧騒が聞こえ、スーパーや衣料品店も近くにあり、毎日の食材なども買いに出ることができる。一級河川の土手に上がれば景色が開けており、神戸川の夕陽を眺めながら散歩を楽しむことができる。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を記した職員ハンドブックを作成、配布し、職員会などで読み合わせしている。定期的に、また新入職員が入る都度、機会を作って法人、事業所理念を共有できるようにしている。	個性を生かし、尊厳を大切にするホームの理念は、職員に配布されているハンドブックの筆頭に記載されており、日々のケアに生かされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のコミュニティセンター等、数回交流をした。法人の保育園行事を介して、またボランティアを受け入れるなどして交流している。更にご近所との交流を深めたい。	立地が市街の賑やかな場所であり、一歩外に出れば民家、大学、付属病院、商店や川土手など人々が行き交っており、生活もホームにこもらない開かれたものになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日頃実践している音楽療法的活動を通じて認知症の人のケアの一端を地域に公開する機会を一度持てたが、その後、コロナ自粛のため中断している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員の方からの意見として、ボランティアの受け入れ、きいちご倶楽部や保育園行事での協力など参考にさせていただいた。	開設してから二回の運営推進会議が行われたが、二回目は新型コロナ感染防止対策として出席者と文書のやり取りで行われた。参加者からは意見が活発に出ており、ホームの運営に生かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	新規ご利用者について高齢者あんしん支援センターの方からの紹介で入居に至った方がある。出雲市担当課とは開設初年度でもあり種々教えていただいている。	開所以来市の担当者とは様々な相談助言に乗ってもらっており、今年度始めも利用料負担軽減措置について指導を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営基準に沿って、定期的な委員会、研修を通じ、身体拘束をしないケアの実践に常日頃取り組んでいる。	ホームは開放的で利用者さんは自由に過ごしており、身体拘束はまったくない。職員の声掛けもやさしくおだやかである。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に努めているが、県社協などの研修を受講することで理念や実践の面で深める必要がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	2年度には県社協の権利擁護研修、またはその他の研修を受けて、事業所内で知見を共有するとともに議論を深めてゆきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、管理者、計画作成担当者がかかりやすく、ていねいに説明、疑問に答えるなどして、納得していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃ご利用者から、また、折に触れてご家族から面会や電話などを通じて、ご意見やご希望をくみ取るように努めている。	昨今の新型コロナウイルス感染防止対応により、家族との面会なども制限される中、本人の様子がわかる写真や担当による状況報告などをお手紙に添えて渡すことなどして、ご家族にも喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の自発的な意見やアイデアなどを積極的にケアや運営に発揮してもらえる雰囲気づくりに努めている。	職員はいつでも同僚や上司にケアの向上に向けた意見が言える。それらは、ミーティングなどに図られ、介護計画にも反映されて日々のケアに生かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりを大切にしている事業所だと思う。理事長も親身に職員の働き甲斐を実現できるよう動いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1年目であり、主に内部の研修を通して取り組んでいるが、今後外部の研修の受講も充実させてゆきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会など少しずつ他事業所と交流できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居にいたるまでの初期の利用者、ご家族との相談、交渉などいねいに行うよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困りごと、どんな生活を望むか、をていねいにくみ取り、それをどう実現するかを一緒に考えてゆくように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	認知症対応型共同生活介護という生活の場で、その方の望む暮らしを実現できるか、を見極めることが重要と考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活する中で本人のできることを大切に、それをやりがいにしてもらえよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いに寄り添うように努めている。利用の様子を家族に知らせるとともに、家族との関係を良好な状態で保てるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会など本人に支障がなければ制限することなく受け入れている。折に触れて、自宅と一緒に帰ったり、家族による外出を支援している。	入居者は、近隣からが多く、ロケーションダメージは少ない。家や地域の商店や親せきなど出身地へのお出掛けなど、いままでのつながりも大切にしている。部屋にはゆかりの写真も飾られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	机の配置などを工夫し、利用者同士がトラブルなく生活されていると思われる。笑顔も多々見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	まだそうした事例はないが、今後あれば努めていく必要があると認識している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の生活の中で見える表情や言動を丁寧に観察し、思いを汲み、それをニーズの把握に生かし、ケアプラン作成に活かしている。	職員は利用者さんとともに暮らしている。日々の団欒の中から、親密になった利用者さんから心の声を聞き取りながら個性を尊重したケアにつなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネージャーだけでなく、各ご利用者に職員の担当を付けることで、より把握ができるように努めている。生活史を職員間で共有するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の様子を観察を、職員間で共有し、定期、不定期のカンファレンスでケアに生かすようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期、不定期のカンファレンスや職員会議、担当制などの工夫や機会を生かして、介護計画の作成、チームケアの改善につなげるようにしている。	ご本人を中心に家族や職員が一緒に作る介護計画は個別のニーズを解決するものとなり状況に応じて都度変更もされている。家族からの手厚い協力も得られている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア記録、伝達ノート、受診記録、ヒヤリハット、事故報告などの記述を職員間で共有し、必要に応じてカンファレンスで見直しにつなげる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者によって定期的な自宅訪問、入院家族のお見舞いを支援に加えている。更に多機能化と言えるような支援方法を模索してゆきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	法人内保育園、介護事業所、コミュニティセンター、介護ボランティア、地域の行事、周囲の自然などあらゆるものを資源を捉えて支援に生かしてゆきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域の近隣にある診療所を主なかかりつけ医として定期的な往診、夜間、休日の相談、往診ができるような体制をとっている。	ホームに常駐の看護師はいないが、協力医が定期的に往診し服薬指導も受けられる。緊急時にも24時間体制での往診可能であり、本人、家族ともに安心できる。同法人の小規模多機能ホームの看護師の協力も得られる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所としての看護職員は雇用していない。法人内事業所の看護師の協力を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交流や相談等入退時は、密に連絡取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	すぐにそうした事例は起きないと思われるが、少しずつ検討を始めてゆきたい。家族と折に触れて今後のことについて話し合い、意向を確認してゆく。	開設して二年目であり、利用者さんは、まだ重症化していないが、今後については本人、家族、医師などとも良く話し合って最良の対応ができるよう取り組んでゆく。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修をとおして力量を深めてゆきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防、災害避難訓練を実施している。必要な備品、消耗品の備え付けにも努める。	法人としての避難訓練は年に二回は行っている。今後、水害、地震、火災など様々な災害を想定して、また、近隣の住民や企業などとも協力体制ができるよう検討していく。備蓄に関しても、一週間程度の食料は常に確保できている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修を実施し、研鑽をつむと共に、職員会議などで振り返るなどしている。	ホームの理念にも掲げられているように、日々のケアの中で常にその方の個性や尊厳を大切に出来ているかを、見直している。職員は丁寧で親切的な態度で利用者さんに接している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を尊重するよう各職員が努めているが、認知障がいによる要望の訴えにどのように応えるか、今後更に検討してゆきたい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ一人ひとりのペースを尊重するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみには常に気を付けて、気付くことがあればすぐに対応するようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に調理レクや嗜好品を提供したりしている。また準備や片づけを一緒にしていただいている。畑で作物を一緒に育てて、収穫もしている。	毎日の食事は利用者さんとともに作り、季節の彩りを考慮して旬の食材での食事となっている。共にいただいた昼食はキュウリとわかめの酢の物、海藻の卵とじすまし汁、肉と野菜のすき焼き風煮込み、ご飯と大変美味でした。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療面、個人の嗜好、食習慣や量、メニューなどを考慮しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本的に自立されている方が多いが、必要な声かけや見守り、介助をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや情報を共有しながら、トイレ案内、または排泄方法など工夫している。	排せつは、さりげない声掛けで回りにそれと悟られることなくトイレに誘導したり、利用者さんのもじもじしたサインなどを見逃さずトイレ排せつにつなげている。トイレは清潔で臭いも全くない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	かかりつけ医師と連携しながら、排泄記録を作成し、薬だけでなく、水分摂取、運動、食物繊維接種など取り組みを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回入浴していただいている。なるべく入浴を楽しみ、満足していただけるようタイミングや方法を工夫している。	入浴が利用者さんにとって楽しいものとなり、歌ってみたり、普段にはない、親密な会話もできる機会ともなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの就寝の習慣を尊重しながら、環境の設定や声掛けなど工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日々の様子の観察をもとに、かかりつけ医師、家族、ご本人と相談し、連携して適正な服薬支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活史、得意なこと、役割をもち、気分転換、楽しみなど見つけることができる支援を目指している。レクリエーションについては職員のスキルアップ、用具の充実に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自宅の訪問や、気分転換の散歩、ドライブ、地域の行事への参加などをケアプランに取り入れ、個別の対応として支援している。	買い物や散歩などは、日常的に行っている。また、家族とのふれあいや外出、外泊も自由にできる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際、欲しい物を自分で選び買われている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者によっては携帯電話を所持されている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木を多用した建築としており、様々な観点から居心地のよい環境づくりに努めている。	玄関からホールを通過して個室などすべてに木材が生地のまま生かされた建築となっており、居心地が良い。窓も広くて近隣の賑やかな喧騒や土手や山につづく自然の風景も眺められる。季節の花や手芸、利用者さん手作りの作品も好ましく飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	落ち着いた中で、馴染みの他利用者や職員と楽しい時間を過ごせるよう工夫に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族にお任せしているが、場合によっては職員の意見も受け入れていただいている。	利用者さんが案内してくれた自室は、タンスやミニテーブル、テレビ、冷蔵庫などが所狭しと設えられているが整頓されており、自分の部屋を好ましく思っておられた。掃き出し窓から自由に出ることもでき、日課として庭の草取りもされている方もあった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが、「していること」、「できること」の両面の評価に基づいて安全に暮らしていただけるよう努めている。		